

No. 2 Webサイト・ページを探す

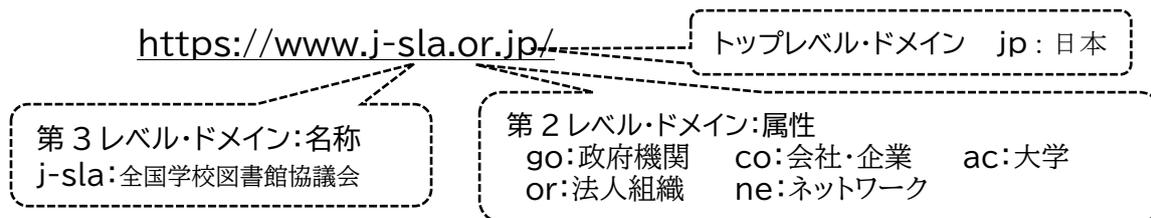
1. 児童生徒向け検索エンジンも利用する

「Yahoo!きっず」は学習を前提としている児童生徒向き検索エンジン。フィルタリングがかかっているため、検索される情報は限定されているが、図書館担当者にとっても便利である。

2. Web サイト・ページの評価

- ① いつ作成されたか、更新されているかどうかが明確なもの。(情報の鮮度)
- ② どこが(誰が)作成したものが明確なもの。(情報の信頼性)

下記は国別・地域別のトップレベル・ドメインを用いたもので、発信者の所属がある程度わかる。



- ③ 統計数値が最新のものの。

3. Web ページの検索

- ① キーワードは、複数用いると絞り込みやすい。
- ② 「キーワードとは」のように、語の意味や定義を調べる時には「とは」を入れる。
- ③ 「グラフ キーワード」、「読み 地名」、「読み 漢字」、「辞典 調べたい漢字」と入力するのも便利
- ④ 検索がうまくヒットしない時は、辞典や関連図書、Web ページを閲覧してキーワードを選ぶと役に立つこともある。

4. 子ども向けサイトや白書、リンク集の利用

多くの各省庁・自治体や企業等が子どもにわかりやすく説明したサイトを提供している。小・中学生のみならず高校生にも役立つものが多くある。また、各省庁が提供している「白書」類は、小・中学生には解説は難しくてもグラフや図表で役に立つものがある。

各省庁のほか、自治体の教育委員会や教育センター、各種団体が学習のためのリンク集(学習素材、学習用デジタルコンテンツ、学習指導案等)を提供しているのも大変便利である。

5. パスファインダーの利用

公共図書館のサイトで子ども向けパスファインダーを提供しているところもある。「テーマ パスファインダー 子ども向け 図書館」などで検索する。

6. レファレンス協同データベースの利用(<https://crd.ndl.go.jp/jp/library/index.html>)

レファレンス協同データベースは、国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している、調べ物のためのデータベース。参加館が作成したレファレンス事例、調べ方マニュアル等を蓄積し、データを Web 上で公開し、図書館のレファレンスサービスや一般利用者の調査研究活動を支援することを目的としている。参加館 869 のうち学校図書館は 71(2021年9月末現在)。

7. 国立国会図書館「リサーチ・ナビ」の利用(<https://rnavi.ndl.go.jp/rnavi/>)

「リサーチ・ナビ」には、「調べ方案内」(様々なテーマごとに、調べもののノウハウを提供する)や「テーマ別データベース」(目次や内容など、多彩な切り口で資料を検索できる)等が含まれている。大人向けのものだが、調べ方に関してヒントが得られる。「絵本・児童書の調べ方」もある。